

# エンカウンター（ENCOUNTER）

第277号

2025年6月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.wjg.jp>

小西芳之助導源「エペソ人への手紙講解説教」より（11）

5章33節「いずれにしても、あなた方は、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい、妻もまた夫を敬いなさい。」

6章1節「子たる者よ、主にあって両親に従いなさい。」

6章2節「あなたの父と母とを敬え。」これが第1の誡めであって、次の約束が、それについている。」

6章3節「そうすればあなたは幸福になり、地上で長く生きながらえるであろう。」

6章4節「父なるものよ、子どもを怒らせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。」

6章5節「僕たるものよ。キリストに従うように、恐れおののきて、

真心をもって肉における主人に従いなさい。」

6章6節「人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、  
キリストの僕として心から神の御旨を行い、

6章7節「人にではなく主に使えるように、快く仕えなさい。」

6章8節「あなた方が知っているとおりに、誰でも良いことを行なえば、僕であれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主から受けるであろう。」

## 善行には必ず善の報いがある

善行には必ず善の報いがあり、悪行には必ず悪の報いがある。これは仏教、キリスト教を通じて、神は正義にいます。善には善、悪には悪の報いがある。これが道徳、宗教の根底です。このごろの人はそんなことは少しも考えていない。その場、その時だけのことを考えている。われわれの行ないには、必ず報いがある。善には善、悪には悪の報いがあるということを、本当に我々は知りたいと思います。

6章9節「主人たるものよ。僕たちに対して、同様にしなさい。おどすことをしてはならない。

9節b「あなたがたが知っているとおりに、彼らとあなた方との主は天にいますのであり、かつ人のかたより見ることをなさない。」

伝教大師が「一隅を照らす者、これ国宝である」と、自分はそういう人を作るために比叡山延暦寺をつくるということを言われたそうでありましてけれども、私も一隅を照らす人になりたい。特に私は自分の家庭を照らすものになりたい。そして、私の職場、ここは職場ですから、この職場の隅、一隅を照らす者になりたい。そのために聖書の勉強をしたい。

## 内村鑑三の言葉「一人の信者ができたら日本は変わる」

内村鑑三は「一人の信者ができたら日本はかわる」と言った。私はオーバーだなと思っていた。ところが、一昨年のクリスマスに申しあげたとおり、一人の信者ができたら、その人の感化によって、神はその人の死後 2 人の信者をつくりたまうと、そういうことを神がしたもうたら、死んでから 25 年たって 2 人、倍になるという計算したら、500 年したら百万人できる。600 年したら、1000 万人以上、700 年したら一億以上のそういう信者ができる。

そうですから、先生は、「一人の信者ができたら、日本は変わる」と言われた。これはうそではない。これは可能性ががありますよ。内村鑑三がそういった。「一人の信者ができたら、日本は変わる」と言った。内村先生が死んで、50 年、昭和 5 年に死んだのですから、そうですからわたしの計算でいくと、昭和 55 年までに内村鑑三の贖いの信仰が分かった人が 4 人でたら、500 年たったならば、百万人の贖いを理解している日本人が現渡邊れる。500 年やそこら 1 minutes ですよ。

## 6章 10節「主にあって、その偉大なる力によって強くなりなさい。」

「主にあって、その偉大な力によって」と、この「偉大な力」とありますが、原語では、「キリストの力、その力によって強くせられよ」と。原語では、「力」という字が3つ出てきている。そうですから、いかにこの言葉が大きな力を持っているかということが解かる。原語によりましたならば、「主にあって、イエス・キリストの力のその力によって強くせられよ」と。be strengthend, ですから自分が強くなるのではない。聖霊が我々に臨んで、強くしてくださる。

そうですから、われらどんな信仰の弱いものでも、どんな平凡な者でもいい。吾等はどうしてへばりついて学んでいるうちに、強くせられる。この「強くせられる」ということが、すなわち己に勝つ力です。己に勝つ力を与えられる。ここに人類の幸福はかかっている。何十年、教会へ来ていても、己に勝つ力がなかったら、そんなものは駄目です。教会へ来る意味がない。

ペテロ、ヨハネという方々は、無学のただ人でありましたけれども、己に勝つ力を持っていた。人類の教師です。聖霊によって、神から聖霊をいただいて、彼らは己に勝つ力を持っていた。自分がなしたいことをなすのでなくして、自分のなすべきことをなす力を持っていた。

そしてそれは、万人がそういう力をいただける。

## 神の武具で身を固めなさい

6章11節「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」

6章12節「私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」

6章13節「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」

6章14節「すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸にあて、平和の福音の備えを足にはき、その上に信仰の盾を取りなさい。」

6章17節「また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。」

6章18節「絶えず祈りと願いをなし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、全ての聖徒のために祈りなさい。」

6章19節「また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜り、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈っ

てほしい。」

6章20節「わたしはこの福音のための使節であり、そして鎖につながれているのであるが、つながれていても、語るべきときには大胆に語れるように祈ってほしい。」

以上、大体「強くせられる」というパウロのこれが勧めであります。が、イエス・キリストの持ち給う力、われわれを強くしたまう力というものは、人類の歴史においてまだ研究し尽くされていない。われわれ各自がこの救いの力を実験したらいい。そして、この救いの力を実験することによって、力が与えられる。己に勝つ力が与えられる。この力がなかったなら、自分はまだ福音がわかっていないと、こう解したらよろしい。

エペソ書には、「無限の富」と、「イエス・キリストの無限の富」、という字が出て来ている。そうですからわれわれは、イエス・キリストが持ち給う無限の富、我々に下さる無限の富を、われわれはどれだけ味わっているかということが問題ですよ。われわれがどれだけイエス・キリストが下さる恵みを味わっているかということが、我々の幸福はここにかかっている。人によらない。自分にかかっている。人がどんなに親切にしてくれても自分は人の親切がわからないですよ。